

令和5年度 第2回 御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 会議録

日時： 令和5年6月29日(木)

9:30 ~ 10:50

場所： [提案会]御殿場市林業会館 1階 第1研修室
[選考会]同上

1 出席者

[御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 委員] ※敬称略

花山 勝重、高橋 良子オザナ、菊池 いづみ、勝又 孝文、刈山 祐江(ZOOM 参加)、川村 美穂
(ZOOM 参加)、立道 佳之、高瀬 宏樹、芹澤 直己、小寺 智之、大石 侑香、瀬戸 邦昭、大田 雄
紀 計 13名

[御殿場市市民協働型まちづくりアドバイザー] ※敬称略

牛山 久仁彦 (明治大学 政治経済学部教授)

[事務局(市民協働課)]

上原課長、三改木統括、小長井

2 提案会 [9:30~10:05]

[内容]

令和5年度御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金(追加募集)の審査・選考にあたり、各事業のプレゼンテーション、質疑応答等を実施。「御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会」の委員14名を審査員として、申請のあった市民提案事業1事業(継続1事業)の事業提案が行われた。

【市民提案事業】

- (1) 事業名： 令和の世によみがえる御殿場馬車鉄道復元プロジェクト [3年目]
団体名： 御殿場馬車鉄道研究会
市の担当課： 社会教育課

[質疑応答]

- (委員) 3年間事業を見てきて、着実に成果を上げてきていると思う。市民協働型まちづくり事業補助金としては3年目になるということで、今後も事業を発展させていく考えがあるとのことだが、資金面としては今後どのように考えているのか。
- (団体) 今後の活動の資金として、昨年度から作成した車両の地域のイベントなどへの貸出でレンタル料をいただくようになった。そこで得られるもので車両の修繕等に要する経費は確保することができるのではないかと考えている。また別の収入の柱として、収集した資料等を基に地区での講演会なども開催しており、そこでも活動資金を得ていきたいと考えている。また、今後は別の助成制度の活用なども検討したい。
- (委員) 活動として「子ども達の体験」について触れられていたが、今後の活動へのビジョンなどあ

るか。

- (団体) 子ども達、という面では、できれば学校教育との繋がりを考えている。昨年度検討したが、コロナの関係もあり上手く形にできなかった。また、イベント等の場で子ども達が乗って、触って、体験できるようになる形になるように行政とも連携したいと考えている。
- (委員) なかなか過去の記録がない中で、記録を残していくことは重要。また、今後の活動の展開を考えた場合に、助成金がずっと継続するものではないため、活動としてのビジネスモデルを考えていく必要があると思う。

3 選考会 [10:15 ~10:50]

[内容]

提案会でのプレゼンテーション及び質疑応答の状況、申請書の内容、及び提案会を受けての採点結果(順位付)等を踏まえて、各事業の内容について協議し、補助金交付の可否や補助金額について決定。

市民提案事業 1事業は、いずれも満額で採択とした。

はじめの一步事業 1事業は、いずれも満額で採択とした。

【市民提案事業】

- (1) 事業名: 令和の世によみがえる御殿場馬車鉄道復元プロジェクト [3年目]
団体名: 御殿場馬車鉄道研究会
市の担当課: 社会教育課
申請額: 300,000円

[コメント(審査用紙自由記載欄)]

- ・3年目を迎えてある一つの着地点に到達する事業内容だと思います(無理なくできる範囲で、と見受けられました。)地域の観光資源に十分なり得るとともに、地元を改めて大切にすることを育てるものになると思います。市のバックアップとともに、企業なども絡めたプロジェクトに育っていくことを期待します。
- ・年々着実に成果を上げられていると思います。まだ現物を見ていないので、今年は見に行きたいと思います。
- ・独特な事業を行っており、とても興味深いものであると改めて感じました。市の文化振興や観光等について、今後も協働しながら活動していただきたいと思います。
- ・御殿場の子ども達に御殿場の歴史を知ってもらう一つの教材としてもっと活用ができればよいと感じた。子ども達にイベントや校外学習で見て、触れて、体験してもらう機会をつくるとともに、市教育委員会が作成している「ふるさとごてんば」にも掲載して、授業でも取り上げてもらい、子ども達に知ってもらうようにできたらと思いました。観光資源としても興味深いと思います。
- ・歴史的な事実を踏まえての活動で御殿場の歴史を伝える面では価値がある。事業の発展性や、

一般市民の関心の面では弱いかもしれませんが。多くの市民も馬車道という名前も知れていません。ビジネスとしての目標を決めて自立を考える時が近づいていると思います。

- ・継続している事業で、団体の熱量が当初と変わっていないのが良いと思った。近隣市町にはない、魅力的なコンテンツとなる可能性が大いにあると思う、
- ・市民に活動を知ってもらおう機会（ふれあい広場など）の情報提供をもっと行政が支援していただきたいと思います。
- ・子どもから年配の方まで、歴史だけではなく生の体験ができることがとても好きなところです。外国の方にも富士山だけの御殿場ではなく、馬車鉄道の御殿場であることが紹介できると更に良いですね。とても応援しています。
- ・他のイベント等との親和性も高いように感じました。「実物がある」ことを強みにした事業展開に期待をしたいと思います。資料の収集、保存も是非力を入れていただきたいです。
- ・御殿場の数少ない歴史の産物を発掘していただき、また後世に繋がるモノを作り上げていただきありがたく思います。御殿場の魅力のひとつになる宝だと感じました。今後の更なる発展を願っております。
- ・認知度は上がりましたが、今現在、個人の倉庫で保管されているようですので実際に子ども達や興味のある方が気軽に見学に行けるのでしょうか？夏休みを利用して市外から来られる子どもも見られる状態が好ましいのではないのでしょうか？今まで馬車鉄道に関するリーフレットが無かったので、線路図や記述が楽しみです。デジタルアーカイブも大切だと思います。
- ・2年間の活動を評価したい。今期は総括として多くの成果を上げてほしい。“オタク”的な要素も感じるが、想定外の波及効果が生まれると期待している。

〔協議内容〕

（委員） 収支予算でデザイン料編集費用など委託料が大きい比率を占めることは気になる。

〔選考結果〕

交付の可否： 可

補助金額： 300,000 円（満額）

【はじめの一步事業】

(1) 事業名： 地域で「共育」－市民のための生涯学習

団体名： 御殿場 HSC 親子の会

市の担当課： 社会教育課

申請額： 50,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・SDGs を掲げる御殿場市に置いて、このような取り組みをしている団体があることを大切にされた方がよい。まずは HSP、HSC について広く知っていただくために「はじめの一步」がよい後押しになると思います。教員や保育者にも知っていただけるような機会があると良いと思います。

- ・HSC、不登校と現代の大きな問題に取り組んでおられて活動も素晴らしいと思います。翌年以降更に発展できるよう今年の活動に注視していきたいです。期待しています。
- ・団体の目的は、HSC、HSP に特化しているが、今回の申請は「市民のための生涯学習」という対象範囲の広いものです。限られた予算や時間で活動するのであればHSC、HSPにピンポイントな内容の計画でも良いのではないかと感じました。団体の目的は素晴らしいと思います。
- ・HSC、HSP という言葉、概念を初めて知った。多様性が叫ばれている昨今、多くの人に知ってもらう、理解してもらうことで「共育」に繋がると感じたので、当該活動を応援したいと思いました。一番は子どもやその保護者、教員にも理解してもらうことが重要だと思うので、今後そちらへのアプローチを期待したい。
- ・行政だけでは手の届かないサービスとして、とても有用な事業だと思う。
- ・事業名だけでは何がしたいのかよくわからない。サブタイトルも検討したほうが良いと思う。多様性の市民の理解促進のため、他団体の「協働の必要性を感じます。
- ・HSC という言葉や意味を初めて知った。市民にもあまり知られていないと思うので、知られていくことで子どもたちの助けになればいいと思う。
- ・親と子供、この2つを元気にするだけで、家族が元気になり、周りの人たちも元気になる。そして、自分(親と子ども)に還ってくる。なので、HSC、HSP の家庭を支えると同時に社会を支えているとても必要な事業です。応援しています。
- ・生涯学習としてこのような事業を行うのは新しい視点だと感じました。
- ・当事者しか理解していない問題なので、広く HSC について知ることが重要だと考えます。この事業を通して悩みを抱える家庭をサポートしていただきたい。どんな方でも住みやすい御殿場になるよう事業に取り組んで欲しい。
- ・今回の提案ではじめて HSP のことを知りました。自分の小学生時代を振り返ると4年生まで神経性胃炎で悩まされました。心理的なストレスだったかもしれません。当時は科学的なアプローチもなく、精神論だけでした。他の例ではカレーの脂身を食べられず、食べるまで前に置かれてさらしものにされる光景を記憶しています。成人して急性肝炎を患ったとき、油が食べられずこの光景を思い出しました。肝臓や膵臓が弱いと食べられないことが分からず、好き嫌いの指導がなされていたように思います。心理学については1987年にUSA出生活したとき、コンサルタントの宣伝が多くなされていました。精神論ではなく、人の心理的な弱さを理解して健全な社会をつくる必要があります。子どもの個人としてとらえる必要があります。子育ては大切でお母さんを助けることを通して、少子化対策は真剣に考える必要があります。
- ・HSC について、まだまだ市民の認知度はないため、特に子どもと関わる方への周知は必要だと感じます。多世代が関わり合いながらともに学び合う「共育」の場の提供が継続できるよう期待します。引きこもりについての課題解決に市民団体からのサポートも必要と思いました。
- ・資料の冒頭を拝見して、HSC が原因の登校拒否についての情報共有事業だと思ってしまった。しかし子育て世代だけでなく、地域社会全体の問題として多様性への理解・共有を深めようとしているのだと思った。“はじめの一步”としては、例えば登校拒否とかの具体的なテーマからスタートしたほうが今後の展開に繋がるのではと思う。

〔協議内容〕

(委員) 収入の部の出店料はどういったものか。

(事務局) 事業計画の中の生涯学習イベントを実施する際に各種団体が参加いただくにあたっての出店料である。

(委員) 教育にとって良い事業だと思う。心理学的なことが教育の場面ではまだ置き去りにされているのではないか。まだまだ市民の理解は足りていないと思う。

(委員) 事業名から内容が分かりづらいと感じた。団体は当事者団体で、協働ということであれば福祉分野に繋がるのが一般的ではないかと考えたが、生涯学習という協働の切り口は斬新だと思う。今回、何故社会教育課との協働事業となったのか。

(事務局) 協働事業として担当課をマッチングする中で、まず団体側の考えとして教育分野とつながりたいという考えがあった。

福祉分野との協働についても検討したが、そもそも HSC(HSP)が病院で診断を受けるものではないということから福祉の領域では扱うことができず、また団体の考えは様々な理由があって学校に行けない子ども達を学校に行くことができるようにしたいということもあり、学校教育ではない広く教育に関わる領域として、まずは広く市民の理解促進、周知を進めるため、生涯学習の担当課である社会教育課との協働となった。

〔選考結果〕

交付の可否: 可

補助金額: 50,000 円 (満額)

〔市民提案事業、はじめの一步事業に共通する補助金の制度に関する議論〕

今回の補助金の審査・選考にあたって採択の可否等に直接かかわるものではないが、補助金の制度に関連して議論が上がったため、整理して記載する。

(牛山教授) 様々な事業で「委託料」があり、現在の補助金の制度の中では認められた経費ではあるが、行政が地域社会の中で必要だがなかなかできない事業を、市民と一緒にやっていこうというのが市民協働なので、その事業の中で更に事業を委託する形が、協働というところで考えるとそぐわない面もある。

当然、専門性や特殊な技術等を必要とするもので、それが団体にもない、行政にもないものもあるため「委託費」を認めているのであれば、どうしてもこれは委託しなければならないということをはっきりさせる必要があるのではないか。

また提案いただく事業計画によっては、事業費の多くが委託料に係る経費となっているものもあるが、これも検討しなければならない課題だと思う。行政が委託を行う場合は、必ず合い見積もりなど行って金額を比較した上で適正な執行とする仕組みになっているが、この補助金制度ではそこまで求めてはいない。それが適正な委託先であることをしっかりと確認しないと、この補助金制度自体が危ぶまれる(特定の事業者に対してお金を流す仕組みになってしまっている可能性など)ので、来年度以降の事業の募集にあたって整理をすべきと考える。

(牛山教授) 他の自治体の助成制度では、例えば委託費はその半額までしか認めないとしていることや、合い見積もりを必須としているところ、特殊な技能等を有しておりそこに委託することでしか実施できないことの原因を付けさせているところなどもある。

いずれにしても、補助金をどのような形としていくべきなのかについては委員の皆さんに御議論いただいて考えていくべきではないか。